

# 金属プレス研修塾 開講式

日 時：令和5年8月4日（金）午後3時～4時45分 塾生交流会：5時15分～7時20分  
場 所：たかつガーデン「ガーベラ」 塾生交流会：杯杯天山閣（中華料理）  
内 容：1部 開講式、関係者挨拶、塾生自己紹介、塾生挨拶号令の練習など  
講演会 講師：濱田恵氏（濱田プレス工藝株式会社 社長）、質疑応答  
2部 塾生交流会  
参 加 者：25名（塾生14名） 塾生交流会参加者：20名（塾生14名）

大阪金属プレス工業会として初のイベントである『金属プレス研修塾』がいよいよスタートしました。企画は数年前から安全・技術委員会にて進めておりましたが新型コロナウイルスのために開始時期が遅れていました。金属プレス研修塾とは、1年間（計6回）の研修を通じて塾生を募集し、金属プレス製品が出来るまでの過程（①製鉄所→②コイルセンター→③金型製作→④プレス製品製作）を学び、そして塾生同士の交流を図る目的で企画しました。今年が初年度ですが、好評であれば次年度以降も継続する予定です。

開講式では林秀昭会長の挨拶、朝田武志委員長の挨拶、塾生の自己紹介、名刺交換、塾生代表の選任、塾生代表による挨拶号令の練習などが行われました。



挨拶に立つ林会長（右） 朝田委員長（左）

次に開講式のメインイベントとして講演会を開催致しました。講師は濱田プレス工藝株式会社の濱田 恵社長にお願いしました。濱田社長は「プレスに詳しい方に深絞り加工などのプレスの話をするよりもプレス以外の興味ある話をします。プレス以外の製品の売上げが当社の約半分を占めています。」と自社で取り組まれている新規事業のお話をして頂きました。

「プレスは藝術」と言う先代社長の思いから社名が濱田プレス工藝となっているそうです。また「ノーと言わないハマダ、出来ないと言わないハマダ」をモットーに会社の風習が成り立っているそうです。

自社製品開発への取り組みは古くから行っておられ、ツールキャビネットは「メリックス」というブランド名で50年以上の販売実績があります。耐震性に強く塗装に有機溶剤（シンナー）を使わない、鍵をかけられて勝手に開かないなど特徴があり、トヨタ自動車などに数多く納入実績があるとのことでした。



濱田プレス工藝 濱田社長

濱田社長はある時テレビで東芝が白熱電球の製造を止めるという報道を見てLED防犯灯の製造を始めたそうです。京都市が18,000個の防犯灯を採用するという入札に15社ほどの競合となりましたが、濱田プレス工藝のLED防犯灯が景観を損なわないデザインということで採用されて半年かけて設置納入したそうです。現在では京都市やその他各自治体にも納入されています。LED防犯灯のみならず倉庫や工場の天井用照明、プールやフットサル場、ガソリンスタンドの照明も納入されています。社員に電気工事士の資格を取らせて、配線や取付けまで社内で行えるようになり、照度設計や省エネ計算、補助金の申請も含めて製品全体を受注生産されていることが最大の強みだそうです。

デジタルサイネージ（電子看板）にも力を入れており、液晶は海外から仕入れるが筐体設計製作から電気配線、設置、パソコンへの接続と試運転確認まで自社で行ない他社と差別化していることが強みだそうです。現在ではカーブのついたデジタルサイネージが主に関東の駅や空港に数多く納入されておられます。



濱田社長による講演会



講演会の風景

更に驚いた製品は全方向型のドライブレコーダーです。これは煽り運転の悲しいニュースを見て開発に踏み切ったそうです。全く新しい分野で自社の技術だけでは難しいと判断して協力会社を探しに長野県まで何度も足を運んだとのこと。JAF（日本自動車連盟）に社長自らが交渉をして、高品質で低価格が実現するならば注文の確約を取り付け、1年で製品にするために毎月打ち合わせを行ない、熱意をもって交渉を重ねて高品質で他社より価格を抑えた製品を作り上げてJAFへ納入されているそうです。

日本の小学生の学力はかつて世界でもトップクラスでしたが現在は40位まで落ちています。文部科学省はゆとり教育による学力低下を改善するために電子黒板を全国の小中学校に導入することを決めたそうですが、濱田社長はこれに注目し電子黒板のスタンドを生産することにしました。公立だけで約30万教室あるそうです。子供が乗っても倒れない、震度7でも倒れない耐荷重350kgの頑丈な構造にする必要があり大阪産技研などで試験を繰り返して開発したそうです。安い海外製品が競合に出てきても負けない製品だそうです。納入には苦労もされているそうで組んだままでは教室に入らず、土日に従業員が学校へ出向いて組み立てて試運転をして納入をしているそうです。夏休みも返上で東京都や長崎県の五島列島にも納入したそうです。生産と納品はまだまだ追いつかず、現在でも毎日出荷しているとのこと。

またJR東日本からトレインシュミレーターの本物を作って欲しいと依頼があったそうです。運転士の訓練用ではなく車掌さんの訓練用のものです。サイズを図るために何度も駅や車両基地へ出向いて寸法測定して製作して納入したそうです。

この数年に新型コロナウイルスが流行した際には人との接触を避けるための宅配ロッカーが必要になると考えて生産することにしたそうです。若い方はマンションを買う時に宅配ロッカーがないと買わない時代です。またこれからの老人社会時代に食事をどうするか、宅配業者に頼むとしても、いずれは戸建てにも冷蔵庫ロッカーが必要になるでしょう。パナソニックに冷蔵庫の製作を交渉したが折り合わず、元東京三洋電機の従業員が多くいる群馬県に足を運んで進めているそうです。スターボックスから5,000台の需要もあるそうです。



ドライブレコーダー



電子黒板スタンド



ロシアによるウクライナ侵攻を受けて軍需産業の必要性も感じておられ10年後には軍需産業に参入したいそうです。中小企業に原子力など作れないので砲弾か地雷かになるがいずれにしても国の平和を守るために必要と考えているそうです。



ト레인シュミレーター

講演を通じて濱田社長が若い塾生の皆さんに訴えたいこととして、相手に頼みごとをする時には熱意が重要、熱意がないと銀行も取引先も動かない。皆さんも何かやりたいことがあったら計画と熱意をもって社長を説得しなければなりません。社長も説得できないのに他の人は説得できませんよ。やりたいことがあれば社長を説得して資金を出してもらおうのです。そして日常生活をしながらも常にニュースや社会問題に注意して下さい。街を歩いているとやりたいことがいっぱい出てきます。出張へ行ってもそうです何かヒントや収穫を持ち帰るようにして下さい。

濱田社長のお話は大変興味深い内容ばかりでした。その行動力には驚かされるばかりです。中小企業の濱田プレス工藝がなぜあらゆる新規事業に取り組みられて数々の実績を上げられているのかがよくわかりました。社長の将来を見据えた戦略はまだまだ続くようです。目的、目標も重要ですが社長には戦略が必要だそうで、半導体関連、教育関連、軍需産業、貿易会社など色々と戦略を立てておられます。

最近では京都にR&Dキュビック京都をつくり半導体を見据えたクリーンルームを完備しているそうです。また三重県名張に塗装工場を新設、前処理工程から塗装工程までの一体自動化ラインを実現した塗装工場はロボットが無人で塗装しているそうです。濱田社長の野望は尽きません。

濱田社長、貴重なお話を有難うございました。

金属プレス研修塾の目的の一つに塾生同士の交流があります。第2部として場所を近隣の杯杯天山閣(中華料理)へ移動して交流会(懇親会)を開催しました。

西村副会長に乾杯のご発声をして頂き美味しい食事とお酒を頂きながら皆さんで交流して頂きました。塾生の皆様は和やかに楽しそうに会話をされて交流を図っておられました。最後は塾生代表の朝田善雅氏(朝田金属工業(株) 取締役)に閉宴のご挨拶をして頂き解散致しました。

今回の金属プレス研修塾は10月6日(金)に鉄鋼材料の製造工程の研修として、株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所を訪問見学して鉄鋼材料の製造について学びます。



塾生交流会 西村副会長による乾杯



塾生代表 朝田善雅氏による閉宴のご挨拶